

## 平成30年度曾田SPIO奨学金受領者(オーストラリアより)

## 福井大学 扇 和弘 氏

私は昨年オーストラリアのアデレードに留学しております。アデレード大学耳鼻咽喉科・頭頸部外科は郊外の Queen Elizabeth Hospital に拠点(医局のようなもの)があり、その近くに Basil Hetzel Institute という研究施設があります。私は研究施設では手術検体から培養したヒト鼻上皮細胞を使用してハウスダスト抽出物や真菌の上皮バリア機能に対する影響を調べるという研究を行いつつ、関連の病院で P.J. Wormald 教授の鼻副鼻腔手術を見学し勉強しております。この教室はもともと手術を主体とした臨床研究を中心に発展してきた教室であり、その後に基礎研究の専門家がチームに加わり最近では副鼻腔炎におけるマイクロバイオームや薬剤耐性菌の研究を精力的に行っております。また毎年11月末には ESS の講習会があり、世界中からたくさんの受講者が集まります。2019年には3Dプリンターモデルを使用したカダバーを使用しない世界初の ESS の講習会が行われました。今後日本でも広まっていけば、よりたくさんの若手耳鼻咽喉科医が効率よく安全な ESS を学べるのではないかと期待しています。また Wormald 教授は北海道大学でも定期的に ESS 講習会を行っており、アデレードまで行く時間がないという先生方も国内で Building Block Concept を学ぶことができます。

アデレード(オーストラリア)は南半球にあるので日本とは季節は正反対になります。子供の頃にオーストラリアのサンタクロースはサーフボードに乗ってやってくるという話を聞いたことがありましたが、実際にクリスマスシーズンになるとホームセンターでは短パンでサングラスをかけたサンタクロースの置物がたくさん並びます。日本で見るとようなトナカイの雪そりに乗ったサンタクロースもいますが、夏バージョンと冬バージョンと半々といった所です。去年はワールドカップの影響で日本ではラグビーが大人気となりました。学生時代にラグビーをしていた私は日本で観戦することができずにとてもしんどいでしたが、オーストラリアにもワラビーズという強豪チームがあるので、きっと盛り上がるだろうと期待していました。しかしアデレードでは一部のスポーツバーで放映しているだけで、観戦している人も少なく、あまり話題にはなっていませんでした。日本であれば盛り上がったのはラグビーの面白さもあると思いますが、やはり日本人の愛国精神の現れなのだろうと思います。多民族国家であるオーストラリアではそういった母国への愛着は日本人に比べると少ないのかもしれないかもしれません。それでも Australian Football League (AFL) やクリケット、年に何回もあるフェスティバル(アデレードは Festival State という別名があります)では、どこにこんなたくさんの人たちがいたのかというぐらい大勢が集まり大変盛り上がります。数日の海外旅行では理解できないこうした文化の違いは新鮮で興味深く、日本人としての自分を客観的にとらえることができ世界の広さを実感しています。

今回の留学を奨学金でサポートして下さった国際耳鼻咽喉科学振興会に対しお礼申し上げるとともに、帰国後はその発展に微力ながら協力させていただきたいと思っております。またこのような貴重な機会を紹介して下さった北海道大学の鈴木正宣先生、応援して下さった福井大学の医局の先生方に対しお礼を伝えたいと思っております。



左から鈴木正宣先生(北海道大学)、Associate Professor Sarah Vreugde(基礎研究部門のボス)、Professor P.J. Wormald、筆者



ラボメンバー、筆者は左から3番目